新小山市立博物館整備基本計画【概要版】

第１章 ｜ 基本計画の背景と目的

新博物館の目指すべき姿

ふるさと小山のつながりを受け継ぎ、未来へのつながりを育む

- 新博物館では、小山市とその周辺の郷土資料の収集保存、調査研究、教育の場としての現博物館の役割を継承・強化し、「田園環境都市おやま」を創った、人と自然、人と人、人と文化の多様な「つながり」を再発見し、郷土の誇りとして継承していきます。
- 新博物館は、未来に向けた多彩な「つながり」を育む“拠点（ハブ）”として、これからの持続可能で活力と魅力にあふれた「田園環境都市おやま」のまちづくりに貢献することができるよう、従来の歴史博物館から、自然も取り扱う総合博物館へと生まれ変わります。

小山市における新博物館の役割

4つの「つなぐ」機能の充実・強化を図り、つなぐ“拠点（ハブ）”の役割を発揮します

魅力をつなぐ	地域をつなぐ	人をつなぐ	未来につなぐ
川と街道が育てた歴史文化と自然を広く市内外に発信し、再発見していただく場を提供します。	小山の魅力で市内のさまざまな資源や施設をつなぎ、回遊ネットワークを形成します。	小山の魅力のもとに市民や観光客が集い、交流し、小山の未来に向けてつながる場を提供します。	小山の自然・歴史・文化の継承と活用を通じて、田園環境都市の未来を担う人材を育成します。

新博物館における「つながり」のあり方

基本構想及び市民アンケートによる新博物館整備の方向性を踏まえ、「ふるさと小山のつながりを受け継ぎ、未来へのつながりを育む」新博物館としての基本計画に求められる方向性を整理します。

- **基盤となる活動を強化するとともに、「未来へのつながり」を育む活動を推進**
- **市民や観光客に、体験を通じて小山の「つながり」に気づき、見つけ、広げていく場を提供**
- **人が「つながり」未来に「つながる」場にふさわしい、誰もが使いやすく、快適な施設づくり**
- **小山市の自然と歴史文化をつなぐ総合博物館にふさわしい体制の整備**

第２章 ｜ 活動計画

活動計画の考え方

博物館活動の基盤となる収集保存･調査研究･展示発信のさらなる充実を図り、「田園環境都市おやま」の魅力で人、地域、未来をつないでいきます

新博物館では、現博物館のふるさと小山に関する「収集保存」「調査研究」「展示発信」の実績と成果を継承するとともに、さらなる充実を図り、博物館活動の基盤を強化します。そのうえで、教育普及活動、他機関連携活動、体験交流活動を強化し、「ふるさと小山のつながりを受け継ぎ、未来のつながりを育む」“拠点（ハブ）”としての博物館の実現を図ります。

活動の方向性

新博物館における活動の方向性を、それぞれの位置づけに基づき次のように設定します。

位置づけ	活動	方向性
基盤活動	収集保存活動	小山市を語る上で欠かせない考古、歴史、民俗、自然の史資料の収集保存を行う
	調査研究活動	収集した史資料の調査研究およびデジタル化
	展示発信活動	収集、調査研究で得られた成果を展示により発信
未来のつながりを育む活動	教育普及活動	郷土愛を育み、市民の知的好奇心を喚起する活動を展開
	他機関連携活動	小山市内の文化施設を中心に、連携をはかり、「小山市文化財保存活用地域計画」のもと「おやま歴史文化ネットワーク」の構築にむけて、中核施設として取り組む
	体験交流活動	市民が考古、歴史、民俗、自然を活用した各種活動を行うための場や、そのために必要な学術的知識等のサポートを行い、より活発で専門性の高い市民活動の展開を促す

第３章 ｜ 展示計画

展示のテーマと方針

川と大地とわたし

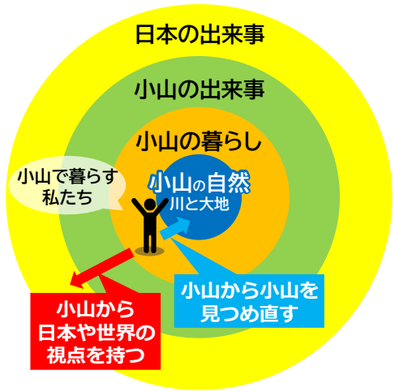
小山の暮らしの中に息づく「自然と風土」「歴史と文化」「人の暮らし」をさまざまな視点から掘り下げ、来館者一人ひとりの“わたし”の未来につなげる

目指す展示の姿

「つながり」が見えると小山の魅力がもっとわかる、好きになる、未来をつくる

多様な展示を通じて、新博物館の目指す姿である「ふるさと小山のつながりを受け継ぎ、未来へのつながりを育む」の実現に向けて取組みます。

- 「つながり」に、気づく・見つける・広げる体験を生み出します。
- 「つながり」の視点を持ち帰り、小山のまちや、暮らしを見つめ直すきっかけ作りを行います。
- 小山を愛する一人ひとりが小山の魅力発信の担い手となり、「つながり」を大切にしようとする機運を高めます。
- 市民の和を広げ、小山の「つながり」をさらに強く、長く続く意識に繋げます。



展示体験の考え方

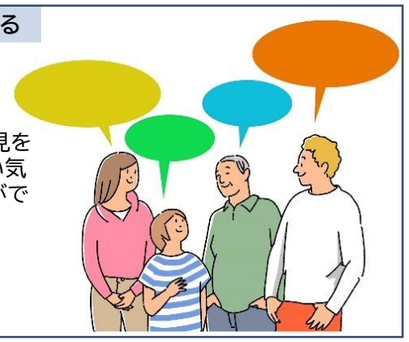
つながりに気づく展示体験

小山の歴史や暮らしの中に存在する多様な「つながり」に気づく体験として、「違うもの」と思っていたものへの共通点の発見など、新たな視点に気づく体験を通し、様々な「つながり」を見出すことで楽しいコミュニケーションをとることができる展示とします。

■ 「つながり」に気づく展示体験のイメージ

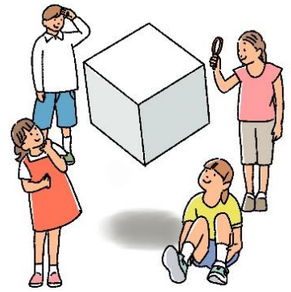
他者の意見を知る

自分と異なる意見を知ることで新しい気づきを得ることができます。



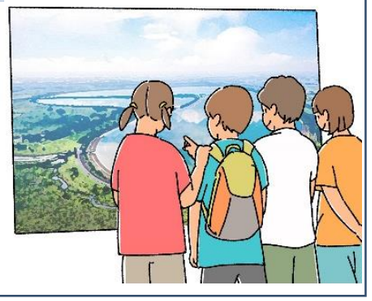
多面性に気づく

新たな一面を発見することで興味・関心や楽しみを広げることができます。



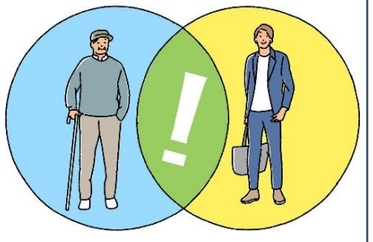
共体験をする

他の人と感情や発見を共有することで、親しみや興味が一層深くなることができます。



共通点を見つける

分野や領域を超えた共通点の発見は新しい視点や考える力を得ることにつながります。



新小山市立博物館整備基本計画 【概要版】

展示構成

新博物館の展示は、エントランス、常設展示室、企画展示室の3エリアで構成します。

（1） エントランス

小山の「いま」と「これから」の魅力が集い、「つながり」を育むスペースとしてのエントランス空間とします。エントランスには、常設展示へとつなぐガイダンス展示を設け、新博物館を訪れた人が常設展示室へ興味を持つためのきっかけとして位置づけます。

ア ガイダンス

「小山つながり発見ジオラマ」

小山を取り巻く多様な「つながり」を探し、見つける楽しさを体験できるガイダンス模型を設置します。常設展示のイントロダクション映像が表示されるなど、常設展示の入口としての機能を持つとともに、市内の遺跡や、文化施設等を紹介するなどのガイダンス機能を有します。

イ 子ども向けの展示スペース

「触れる展示コーナー」

資料をハンズオン手法で楽しみながら観察できる展示スペース。小さな子どもが遊びながら自然と博物館の資料に親しみ、興味を持ってもらえる展示とし、子ども向けのガイダンス機能を有します。
資料交換が可能な仕様とします。

（2） 常設展示室

常設展示室では、考古、歴史、民俗、自然の4分野に加えコレクション展示のコーナーを設け、小山の暮らしの中に息づく「自然と風土」「歴史と文化」「人の暮らし」を掘り下げます。小山に存在する様々な「つながり」を実物資料と解説で伝える展示室とし、「つながり」に気づくための様々な仕掛けを取り入れた展示とします。興味のある展示を深堀りしながらじっくり見学したり、ゆっくり座りながら見学したりするなど、来館者が自由に過ごすことのできる空間として整備します。
またコレクション展示では季節に合わせた展示など、定期的に展示替えを行い、何度も来たくなる常設展示室を目指します。

（3） 企画展示室

企画展示室では、学芸員の研究成果を館所蔵資料や他館からの借用資料を活用して公開していきます。春、夏、秋の年3回程度の企画展示を行うとともに、企画展示を行っていない期間には、学校教育と連携して、小山の昔の衣食住にかかわる道具などを展示します。

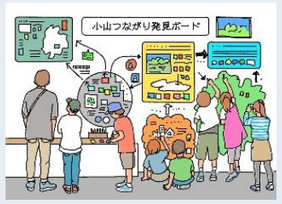
展示解説

多様な「つながり」に気づいてもらうきっかけとして、実物展示に加え、様々な展示手法を用いて解説します。来館者が展示をみることで小山の様々な「つながり」に気づくとともに、自分で「つながり」を探し、発見し、それを発信・共有することで「つながり」の輪がさらに広がっていくことを目指します。展示手法については、今後展示構成や展示資料を選定していく中で最適な手法を検討していきます。

■「つながり」に気づくための展示解説例

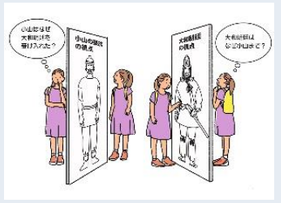
自分の考えを残す

掲示板や、投票ボードなどに来館者の意見やアイディアを残し、共有する。



視点、立場を変えてみる

ひとつのトピックに対し様々な角度や視点から向き合ってみる

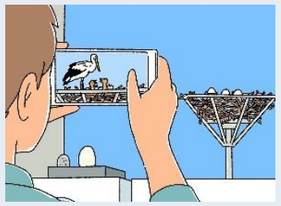


線や色、印でつなぐ

つながりのあるトピック同士を視覚的に線や色やマークでつなぐ

過去とつながる

資料が使われていた様子や、生きていた時の状態など過去の姿を重ねて見る



■ 興味関心に応じ、それぞれが深堀することのできる展示解説

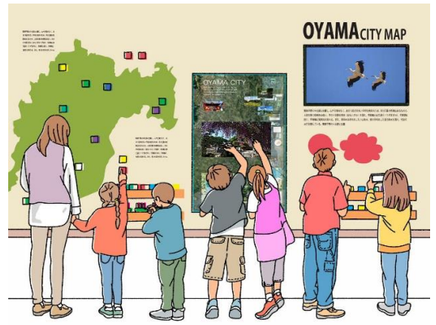
それぞれの興味関心に対応することを目指し、利用者が所有するスマートフォンやタブレット等の通信端末からWebページへのアクセスができる仕組みを検討します。Webページではより深く知りたい方向けの詳しい解説や、画像や動画の表示、多言語対応などの情報提供を検討します。

情報発信

展示室以外にも小山の魅力を発信する場を設け、多くの市民や観光客の方に、新博物館をきっかけに他の施設や文化に興味を持っていただける機会を創出します。

（1）「OYAMA観光マップ」

新博物館のエントランス内に設け、小山の魅力を観光情報として発信し、周遊を促し、博物館とまちの「つながり」育みます。観光協会が発行するパンフレットの設置や、周辺の回遊ルートの情報提供等を検討します。
また、来館者がおすすめの観光スポットを紹介できるようにするなど、来館者同士のコミュニケーションの場としても機能します。



（2）「みんなのライブラリー」

新博物館のエントランス内に設け、市民が気軽に博物館を訪れ、知識を深められる場所とし、博物館と市民の「つながり」を育みます。小山の歴史、民俗、自然に関する書籍やデジタル端末の設置等を検討します。また、企画展の関連書籍を紹介し図書館へ誘因するなど、図書館との他機関連携としても機能します。
エントランス内にある多目的スペースや交流スペースとあわせて、市民や観光客が気軽に博物館を訪れたくなる開かれた空間とし、小山への理解を深めたり、展示へ興味を持つきっかけを創出します。

（3） ホームページの整備

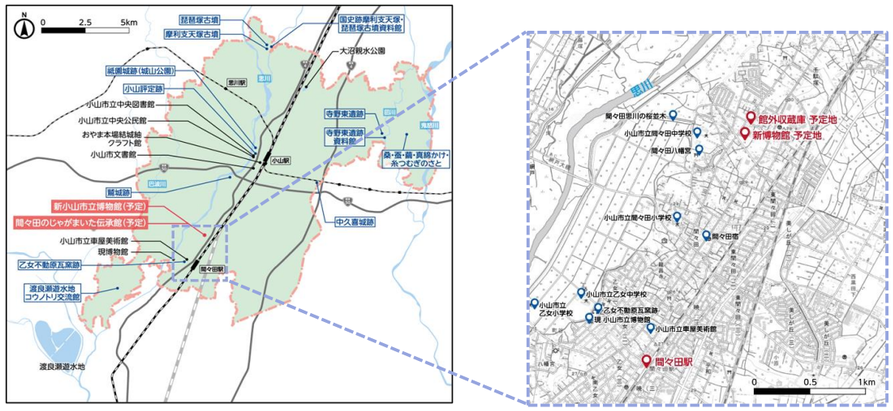
博物館の情報発信の場として館のホームページを刷新します。企画展開催時や、コレクション展示が更新した際の情報発信などを積極的に展開します。
展示室から2次元コードで博物館のホームページ上にある解説などを表示できる仕組みとします。

新小山市立博物館整備基本計画【概要版】

第４章 ｜ 施設計画

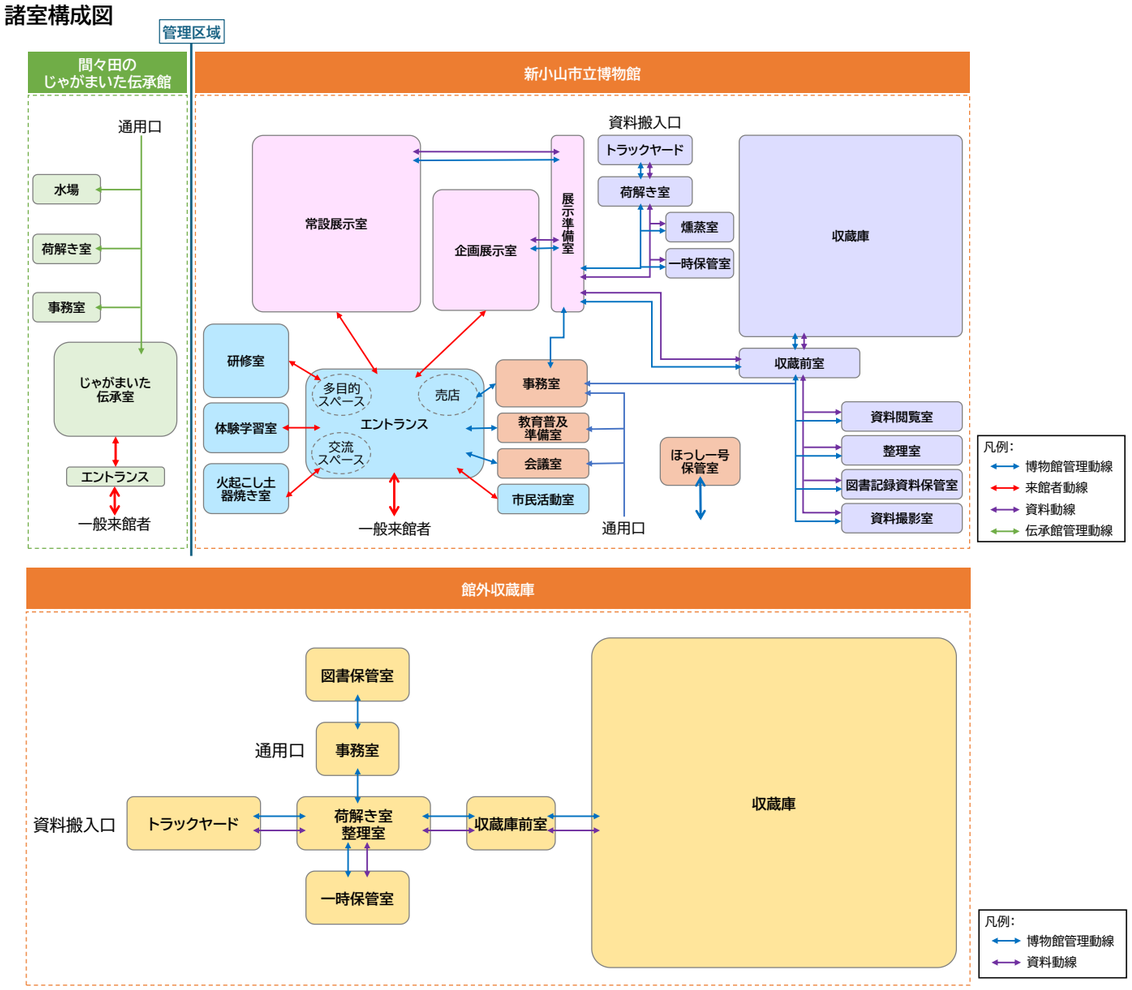
本事業では、新博物館と伝承館及び館外収蔵庫を建設します。館外収蔵庫の予定地は新博物館予定地の近くとします。

■ 予定地位置図



新博物館と間々田のじゃがまいた伝承館の2つの施設を同敷地内に整備することから、相互の利用者や職員の動線を考慮し、必要諸室や機能の関係性を整理すると以下の構成図となります。

■ 諸室構成図



■ 各諸室のボリューム

エリア区分	諸室名	面積(㎡)
展 示 エ リ ア	常設展示室、企画展示室、展示準備室 等	約750㎡
体験交流エリア	エントランス、多目的スペース、交流スペース、体験学習室、研修室、市民活動室、火起こし土器焼き室 等	約600㎡
収 蔵 エ リ ア	収蔵庫、収蔵庫前室、資料閲覧室、整理室、図書記録保管室、資料撮影室、燻蒸室、荷解き室 等	約800㎡
管理運営エリア	事務室、会議室、印刷室、教育普及準備室、清掃員控室、ほっしー★OYAMA号管理倉庫、機械室 等	約600㎡
伝 承 館	じゃがまいた伝承室、事務室、倉庫、水場・荷解き室 等	約250㎡
館 外 収 蔵 庫	収蔵庫、収蔵庫前室、図書保管室、荷解き室・整理室 等	約1,000㎡

■ 外構

- 現博物館の駐車可能台数を基準に、駐車場を整備します。
- 周辺地域の賑わいを創出できるイベントが開催できるような外構設備を検討します。

■ その他

- カフェやレストランの導入については、文化財IPM(総合的病害虫管理)の観点や、民間企業等の参入意向、導入に係るコストなどを踏まえて、検討します。

第５章 ｜ 管理運営計画

- 新博物館は、効率的に施設を整備することを目的に伝承館と一体整備をおこないます。管理運営に関しても同様に効率的な運用ができるよう、検討していきます。
- 新博物館には新分野として自然分野が設けられます。さらに、全国の博物館から国指定重要文化財を含む貴重な史資料を借用し、市民に魅力的な企画展を提供していくことを目指しています。
- 新博物館の活動計画にもある基盤活動となる「収集保存」「調査研究」「展示発信」活動を円滑に行うための人員を確保し、組織体制を整えていきます。

第６章 ｜ 開館に向けて

整備スケジュール

本事業は新博物館、伝承館、館外収蔵庫の建設を効率的に実施するため、以下のスケジュールにて進めていきます。

■ 現博物館開館スケジュール

令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	令和11(2029)年度
開館		部分開館(学校対応・常設展等継続)			

■ 従来方式(指定管理者制度・一部指定管理を含む)

令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	令和11(2029)年度
基本計画					
民活調査					
	展示基本設計				
	建築基本設計				
		展示基実施設計	制作・工事		
		建築実施設計	建築工事		開館、運営開始
					開業準備

■ PFI方式(DBO方式を含む)

令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度	令和10(2028)年度	令和11(2029)年度
基本計画					
民活調査					
	特定事業の選定				
		事業者募集			開館、運営開始
			基本設計、実施設計、製作・工事		
					開業準備